

令和元年度第1回荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和元年10月8日(火)午前9時30分～午前11時45分

2. 場 所 荒尾市役所 市長公室

3. 出席者	荒尾市長	浅田 敏彦
	荒尾市教育長	浦部 眞
	荒尾市教育委員	境 民子
	荒尾市教育委員	西尾 直子
	荒尾市教育委員	渡邊 義専
	荒尾市教育委員	旭田 國浩
(オブザーバー)	副市長	田上 稔
(事務局職員)	総務部長	石川 陽一
	政策企画課長	田川 秀樹
	政策企画課世界遺産・文化交流室長	沼田 征樹
	政策企画課総合政策室長	奥村 猛
	政策企画課総合政策室副主任	丸本 真由子
	教育次長兼教育振興課長	前田 偉知雄
	教育振興課教育審議員	永杉 尚久
	教育振興課指導主事	成瀬 典子
	教育振興課課長補佐	畑山 鉄也
	教育振興課教育政策係長	吉村 麗月
	教育振興課学校給食センター整備推進室長	岡村 哲明
	給食センター所長	永吉 万寿美
	生涯学習課長	宮脇 浩司
	生涯学習課社会教育係長	馬場 理恵子
	生涯学習課スポーツ推進係長	前田 恵子

4. 傍聴者 無し

5. 議事

- (1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく平成30年度の取組み状況について
- (2) 今年度重点的に取組んでいる施策について
- (3) 教育施策全般に関する意見交換

6. 議事経過の概要

以下のとおり

○議事経過の概要

1. 開会

田川政策企画課長が、開会の宣言、配付資料の確認及び新しい構成員の紹介を行った。

2. 市長あいさつ

浅田市長が、あいさつを行った。

- ・昨年度の総合教育会議において、本市の特徴ある教育内容の成果をもっと対外的にアピールしてはどうかと発言し、今年度早速、荒尾教育フォーラムという形で開催していただいた。浦部教育長はじめ、関係者の皆様の御尽力に深く感謝申し上げます。
- ・オンリーワンの学校の取組や、各中学校の生徒の皆さんの素晴らしい発表もあり、感激した。教育政策をバックアップしていかなければいけないという市長としての責任感を改めて強く感じた。教育先進都市を目指して、これから益々、力を入れていきたい。
- ・これから先の教育をどのようにしていけばいいのかという様々な課題があると思われるが、そのような点についても委員の皆様と意見交換をさせていただきたい。

3. 議事

(1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく平成30年度の取組み状況について

基本目標ごとに、前田教育次長兼教育振興課長、宮脇生涯学習課長、田川政策企画課長が、資料1に基づき説明を行った。

【基本目標①：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ】

＜主な意見等＞

西尾委員

朝食を毎日食べている児童生徒の割合が年々増加していることは良い傾向であるが、食事の内容を心配する。食事の内容が良くなれば、もっと子どもたちの学習意欲等につながるのではないかと考える。両親が共働きの家庭も増えており、難しいと思われるが、もう少し食事の内容を充実させていけると良い。

→朝食に限らず日々の食生活の中で、どのような食事を取るのかは重要である。食生活の内容も含めて充実させられるような調査もしていきたい。(前田次長)

【基本目標②：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ】

<主な意見等>

境委員

中学校においては、以前から英語教育が課題である。ALTの人数を確保すれば良いというわけではない。ALTを活用した指導方法を検討する必要がある。例えば、ALT同士の悩みを解決する時間や、ALTによるモデル授業等、ALTの力を引き出せるような事業を考えていただきたい。

→英語については、今後の重点課題の1つにしたいと考えており、来年度に向けて計画を立てているところである。

全国学力調査において、英語に対する意識調査があり、小学校については8割の児童が英語は楽しいという回答だった。一方、中学校では、英語の授業が理解できているかという問いに対して、5割が理解できているという回答だった。この結果は、大きな課題であり、英語の授業を生徒が十分に理解できるように充実させることや、ALTが生徒と英語で日常会話をするなど、日頃から英語を使えるような環境を、学校側で作っていくことが必要だと考えている。

ALTについては、5名に増員し、研修体制、英語教材の研究、日頃から生徒たちとコミュニケーションをとれる環境を整えることが必要である。(前田次長)

境委員

先日の教育フォーラムにおいて、子どもたちから「英検」という言葉が出ていたが、子どもたちの日常の中に英語に対しての意識が芽生えたことを感じることで嬉しかった。市教委指定研究推進事業の指定校として中央小学校が指定を受けているが、何が課題なのか等、検証する必要があるのではないか。

→中央小学校については、平成26年度から7カ年の指定であり、来年度が最終年度である。来年度は成果検証を行い、発表の場を設けることを考えている。(前田次長)

浅田市長

中央小学校と第三中学校の英語の授業を拝見した。子どもたちの表情も明るく、非常に楽しく授業が行われているのを見て、小学校からの取組を中学校へつなげられていると感じた。この取組を他の小学校や中学校に広げていくことが、以前からの課題だったが、全く進んでいない。中学校での英語教育をどのように充実させていくのかは、重要テーマとして具体的な対策を考えていただきたい。

浦部教育長

他の小学校や中学校に広げられていないのは事実である。中央小学校については、自分たちの持っているノウハウを全部伝え、それから全ての小学校に広げていく。年内に、来年度の本格実施に向けて準備を始める。

具体的な対策としては、来年度の本格実施に向けて、毎日ど

こかで英語に触れる時間を設定できるよう検討している。中学校については、授業改善が大きな役割になってくると思われるため、現在実施している研修会をしっかりとしたものを作り上げ、ALTの質の向上までしていかなければならないと考えている。

旭田委員 第四中学校の英語の教員に1人欠員が出ていると聞いたが、マンパワー的に問題ないのか。

浦部教育長 現在、県が給与を負担している教員が1人不足している。県下全域において、英語の教員が不足している状況であるが、引き続き探していく。

【基本目標③：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる】

<主な意見等>

渡邊委員 旧第五中学校の運動場や体育館については現在も活用されているが、校舎の活用については予定があるのか。

浅田市長 旧第五中学校の活用は長年の課題であり、様々な活用の検討を行ってきたが、現時点では確定していない。公共的な利用について検討したが、立地条件や交通手段等の問題があり、視野を広げて、民間への貸し出しも検討しているところである。校舎は比較的新しいため有効に活用して、荒尾市に効果がある活用をしていきたいと検討を進めている。

渡邊委員 小学校に遊具が少ないと感じるが、安全面での影響によるものか。
→安全面での影響もあるかと思われるが、遊具の調査をしながら適切な整備を行っていく。(前田次長)

渡邊委員 旧第五中学校の遊具がそのまま残っており勿体ない。施設を閉じるならばその後の活用についても検討するべきである。

境委員 小学校で夏休みにラジオ体操が行われていたが中止となった。しかし、学校に頼らずとも、市民が小学生に夏休みの間ラジオ体操を一緒にしようと呼び掛けてやれば、地域の中で交流もでき、子どもたちの声も聞こえてきて、地域の活気が出てくると思われるため、そのようなまちに出来ればよいと考えている。
→平成29年度にラジオ体操の講師に来ていただいた際には1,000人以上の参加があった。昨年度は市民体育館で行い、今年度もラジオ体操の講習会を行う予定である。スポーツ推進委員協議会としても、ラジオ体操を地域に普及さ

せていこうとしており、健康づくり推進員協議会も積極的に協力していただいている。地域の中心となる人に呼び掛ける等検討する。(宮脇課長)

境委員

イベントで行うのではなく日常化として、行政を頼らず市民から積極的に活動できるようにしたい。
→地域のつながりが地域の活気を生むと感じている。地区協議会や地区担当職員制度等もあるため、スポーツ関係だけでなく、学習の場など様々な分野においてもどのようなことが出来るか検討したい。(田川課長)

浅田市長

リーダーの育成に対する問題意識が足りていないと感じる。各団体においても、次の世代のリーダーが育っていないという問題がある。理想としては、現役世代がリーダーとなることが望ましいが、日中は仕事をしていることもあり、なかなか難しいのが現状である。一方で、定年退職後には、地域のため、荒尾市の将来のために何かやりたいという気持ちのある人が多く存在すると思われる。リーダー育成を生涯学習の観点でもう1度見直すことが必要である。

渡邊委員

万田中央地区協議会においてもプレイヤーが少ない。定年退職後も仕事をしている人もいて、地域の行事にもなかなか参加されず、地域の活動に非協力的である。どうにかして60代を引き込めるような施策を考えなければいけない。
→退職された方が、なかなか地域に参画していただけないという話は聞いている。後継者の育成というのは大きな課題と捉えており、手段については検討する。(宮脇課長)

旭田委員

地域の役員を決める際に同級生のつながりを活用している。以前は、市で地区協議会の役員の研修会があった。このようなリーダーを育成する研修会があれば良いと思う。

【基本目標④：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる】

<主な意見等>

境委員

市史講演会の来場者が固定化されており、もっと多くの人に聞いてもらいたい。また、講演内容も専門的過ぎて難しく感じる。また、宮崎兄弟の生家は、静かで入りにくい雰囲気であり、荒尾干潟水鳥・湿地センターは、看板が見つけにくく、施設内の展示サービスも工夫する必要がある。様々な施設はあるが、もう1つ魅力が欲しいところである。専門家だけでなく一般の人も多く来場するため、おもてなしの心が必要である。
また、シンガポールとの懸け橋であるタン氏を、国際交流や

語学学習等、もっと様々な面で活用すべきである。

→タン氏については、シンガポールとの共同報告書を作成する際の通訳を中心に、英会話教室、クリスマスパーティ、ALTとの交流を深める等の活動をしていた。共同報告書については完成したため、今後は英語の授業に限らず、地域においてどのような活動ができるか検討する。

市史講演会、宮崎兄弟の生家、荒尾干潟水鳥・湿地センター等については、お客様に丁寧な対応で接することは当然のことであり、観光客への看板等の整備を行っているところである。また、万田坑の来場者数もピーク時の3分の1程度に減少している。日本の文化を知ってもらうためにも、具体的な事業を考えていく必要がある。(田川課長)

浅田市長

荒尾干潟水鳥・湿地センターについては、当面は入り口にのぼり旗を設置し、将来的には目立つ看板を整備したいと考えている。

各施設の来場者へのおもてなしの心は重要である。歴史あるものを見てもらうこと以上に、子どもたちの好奇心をくすぐるような仕掛けが必要であり、来場者数を増やすような努力をしてもらいたい。

また、シンガポール国家文物局との新たな基本合意書の中で、青少年の交流を行うこととしている。晩晴園だけでなく様々なシンガポールの文化施設を通じた青少年の交流を行いたいという、市からの要望を取り入れて協定書を締結することが出来たため、是非、中学生をシンガポールに派遣したり、シンガポールから日本の中学校に来てもらったりして交流してもらいたい。英語力の向上にもつながるため、世界を感じてもらえる事業をやりたいと考えている。

境委員

例えば、文化財等に関して中学生が理解できるような内容を英語でタン氏に講話してもらい、それをALTも見ること、子どもたちは文化や英語に対して興味を持ち、ALTの勉強にもなる。先生の中でも、宮崎兄弟の生家や万田坑等を訪れたことがない人も多い。先生が実際に訪れて、受けた感動を子どもたちに伝えていってもらえるような学校・地域でありたい。

→学校の先生や生徒も含め、市民が荒尾市を理解できていなければ、市外から訪れた人に伝えることはできず、おもてなしができないと認識している。

シンガポールの文化、日本の文化、簡単な英語や中国語、宮崎兄弟の生家と晩晴園とのつながり等を、事前に勉強してもらった上で、シンガポールへの派遣やシンガポールから日本へ来訪してもらうことが望ましいため、学校のカリキュラムとセットで考える必要がある。(田川課長)

渡邊委員

音と光の祭典にて、第一小学校の子どもたちが宮崎滔天の劇をやっていたが、それを定期的に宮崎兄弟の生家でやってはどうか。万田坑に関しては、万田小学校が「万田坑子どもガイド」を実施しているが、これももっと活用すべきである。また、万田坑がどのようにしてできたか等の様々な話を1つの話にし、劇や紙芝居で子どもたちや専門家等に話してもらうような機会を定期的に設けたほうが良い。大きなイベントをやるだけでは人は集まらないと思われる。現地を訪れ、何かを体験・習得し、「楽しかった」「また行きたい」と思わせられるような取組をやっていただきたい。

→特定の小学校だけでなく市全域に広げていく視点、また、地域の子どもたちが自らガイドを行うには、内容が理解できていなければガイドできないため、何かを通して理解を深めることは重要な視点である。(田川課長)

(2) 今年度重点的に取組んでいる施策について

施策ごとに、前田教育次長兼教育振興課長、宮脇生涯学習課長、田川政策企画課長が、資料2に基づき説明を行った。「教育環境の整備・充実」、「家庭・地域の教育力の向上」、「地域社会における教育力の向上」、「文化財の保護と活用」については、特に意見はなかった。

【確かな学力の育成】

<主な意見等>

西尾委員

小学校ではあらおベーシックに基づいた授業を行い、子どもが自信を持って嬉しそうに学習リーダーをしており、周りの子どもたちも積極的に授業に参加している。先生方もこの授業スタイルに早く馴染んでもらい、子どもたちの力を引き上げられるよう、ICTの活用等新しいことを学んでいていただきたい。

境委員

スマホや電子黒板等の電子機器の扱い方に関しては、大人も子どもも同程度のレベルである。むしろ、子どものほうが抵抗なく受け入れられている。時代が変化していくことに合わせて、大人も新しいことを学び続けなくてはいけない。

旭田委員

荒尾市の子どもたちは、真面目に授業に取り組んでいる。先生と子どものつながりが重要であり、先生方には子どもたちのやる気を引き出せるような気持ちで接していただきたい。荒尾市の子どもたちは、エアコンも設置され、小学生は給食費も無償であり、環境的に恵まれていると思う。

【生涯スポーツの推進】

<主な意見等>

旭田委員 | あらお放課後子どもスポーツ教室実施事業は3つの小学校で実施しているとのことだが、他の小学校にも広げることは考えていないのか。
→指導者の派遣が出来るかが課題であり、体育協会と協議をしながら、少しずつ広げていきたいと考えている。(宮脇課長)

(3) 教育施策全般に関する意見交換

今回の議事以外の教育施策に関する意見交換を行った。

<主な意見等>

浅田市長 | 学校規模適正化については、計画期間が終了しているが、今後の再編を考える上でも、学校規模適正化計画の総括はすべきだと思うが、どのように思われるか。

渡邊委員 | 小学校によっては、子どもたちの人数は増えてきているように思われるが、統合する必要があったのか疑問である。中学校も遠くなり、他市の中学校に行きたいと思う理由も理解できる。数年先のことまでもう少し考えて統合していただきたいかった。
→学校規模適正化計画は、平成18年度から平成23年度までを前期、平成24年度から平成29年度までを後期とした12年間の計画だった。現状としては、少子高齢化が進んでいる中、荒尾市においても子ども的人数が増えている地域、減っている地域をどうしていくのかの方向性も含めて、新たな基準等も必要である。平成28年4月に、府本小学校と八幡小学校を統合するとしていたが、様々な意見があり、現状としては延期となっている。状況を見ながら検討する必要があると考えている。学校規模をどのように適正化するのか、新たな考えも含めてまとめていく必要がある、教育委員会としてもスケジュールを組んで進めていくことを考えている。(前田次長)

浦部教育長 | 総括は必要である。総括では、保護者や地域の方も含めたところで、これまでの取組みに対しての意見をいただく必要もあると考えている。10年前の学校規模適正化の基準としては、複式学級や学校を創らないこと等があった。十数年たった現在もその基準が合うのかどうか見直す必要がある。早い段階で総括をしたいと考えている。

旭田委員 | 最終的には、保護者等の意見が一番重要となるが、あまりに

も人数が少ないと将来的には統合が必要になってくると思われる。

浅田市長

学校規模適正化については様々な意見があると思うが、今までの学校規模適正化の基本方針を継承していく方が良いのか、あるいは見直した方がいいのかも含めて、今までの取組みを地域の方の意見等も含めて幅広い視点で丁寧に総括をしていき、これからの方向性を改めて議論していくべきである。

4. その他

田川政策企画課長が、今年度の総合教育会議は2回の開催を予定しており、次回は2月頃に開催し、本日の会議の意見に対する回答及び次年度の事業の説明等について報告する旨を説明した。

5. 閉会

田川政策企画課長が、閉会の宣言をした。